



岩手県田野畑村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2022

地域連携ワークショップとは

地域活性化への挑戦！――地域が実際に直面している地域課題について、学部も学年も様々な学生がチームを作り、地域でフィールドワークを行い、地域でのアクティビティを体験し、自治体関係者や地域住民と一緒に課題解決を練り上げ、最終的に報告会にて自治体や住民に提案する、実践型のワークショップです。

地域の魅力を知る、地域課題を深く考える、学部を横断した仲間と協働する、貴重な機会になります！

おススメのポイント！

- 田野畑村の魅力を伝えるプランを学生自身が総合プロデュースできます！
- 村長をはじめ住民の方々に直接ヒアリングする貴重な機会があります！
- グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。

テーマ

“大学生関係人口増加”を目的とした 「田野畑満喫滞在プラン」を提案してください

田野畑村は、三陸復興国立公園に指定される景勝地「北山崎」や、作家吉村昭先生が訪れ「星への旅」執筆のインスピレーションとなった「鵜の巣断崖」など豊かな自然資源を有しており、それらの自然資源を活用した地域観光が魅力の一つです。

一方で、東日本大震災の影響や新型コロナウイルス感染拡大に伴い、観光客数が大きく落ち込んでいるため、従来の通過型観光から滞在型観光への転換を図ろうと、漁村・山村の文化を生かした体験型観光プログラムにも力を入れています。

しかし、依然として団体バスでの通過型観光が観光客の多くを占めているほか、震災や新型コロナウイルス感染症の影響のほかに、▶冬期間の観光入込が落ち込む▶知名度が低い といった課題も抱えています。

そこで、早大生のみなさんならではの感性で観光客、特に大学生が「ワクワクする」「知人にも紹介したい」と感じる「田野畑満喫滞在プラン」を提案いただきたいと思います。比較的時間に自由のある大学生を対象として、単発の観光プランではなく、将来的な関係人口（移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々）の増加につながるプランを期待しています。

田野畑村の魅力

田野畑村は岩手県沿岸北部に立地する臨海型の山村です。海産物だけでなく、酪農が盛んで乳製品が特産品として自慢です。沿岸部には財団法人日本交通公社による観光資源評価で特 A 級の評価を受けた景勝地「北山崎」をはじめとした絶景が広がり、また、現役の漁師がガイドを務める「サッパ船アドベンチャーズ」などの体験型観光も盛んな村です。



募集期間	2022年6月3日(金)～6月17日(金) 17:00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生(修士課程)(学部、専攻、学年問わず)
応募条件	原則として事前説明会(オンライン)への出席 および 全ての公式日程(次頁)への参加が可能なこと
募集人数	1チーム(5名)
応募方法 選考方法	<p>事前説明会(オンライン)について【要申し込み】 日時: 6/7(火)、6/8(水)、6/9(木)、6/10(金)、6/13(月)、6/15(水) 12:20～12:40(全日程) ※申し込み方法などの詳細は、Waseda メールもしくは Web ページ上でのご案内に記載しています。 ※すべての回で内容は同じです。上記6日程のうち、いずれかの回にご参加ください。 ※事前相談会(12:40～13:00)も上記の日程で実施します(参加は任意です)。 (説明会出席後) 以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から申請してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① MyWASEDAの「お知らせ一覧」から「地域連携ワークショップ2022 夏編」を検索 ② 「地域連携ワークショップ2022 夏編応募フォーム」から「申請」をクリック ③ 必要事項(志望理由400字程度)を入力して申請 
選考方法	<p>書類選考: 結果通知は2022年6月27日(月) 12:00までにWasedaメールにて通知します。 ※面接選考(オンライン)を実施することがあります。その際は対象者に別途ご案内します。</p>
注意事項	<ol style="list-style-type: none"> ① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク(現地調査)の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、岩手県田野畑村内となります。 ③ 【重要】公式日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ④ 【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前にPCR検査等を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します。 ⑤ 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント(オリエンテーションやフィールドワーク等)がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ⑥ 参加にかかる費用(現地までの交通費※、フィールドワーク期間中の食費、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など)は参加者による実費負担です。 ⑦ 田野畑村から往復の交通費及び現地活動費(食費は除く)として約半額分の補助があり、また、宿泊は村の施設を無料で利用できる予定です(寝具クリーニング代と光熱費が別途かかります)。またフィールドワーク中の移動については、役場公用車(村役場職員が運転)を使用します。なお、WSCメンバーズ基金(WASEDA サポーターズ倶楽部)からの支援により、5,000円～10,000円が補助されます(金額はワークショップ開始時にご案内します)。 ※交通費の目安(片道・ご参考): 東京→盛岡→宮古 ¥16,290 宮古よりバス等で現地着 ⑧ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑨ 当ワークショップは複数の地域(第2希望まで)に応募することができますが、最終的に参加できるのは1地域のみです。当地域を第1希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第2希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑩ 早稲田大学の学生補償制度に加入いただけますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑪ ワorkshop実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いとはなりません。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	<p>教務部教育連携課 (rbso@list.waseda.jp) ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部/研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。</p>

ワークショップスケジュール

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田キャンパス	7/5(火) 13時-15時	<ul style="list-style-type: none"> 参加者顔合わせ 自治体担当者からの説明 課題および課題設定に至った背景の説明 今後のスケジュール確認 事前調査の内容説明
②	事前調査期間	～8/6(土)	<ul style="list-style-type: none"> 田野畑村について調査／情報収集を行い、テーマに対する仮説を立てる ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）を検討し、自治体へ提出 必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
③	交流会 @早稲田キャンパス	8/2(火) 10時30分-12時30分	<ul style="list-style-type: none"> ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める フィールドワーク前の注意事項確認 交流会後はグループワーク用に会場開放予定
④	フィールドワーク (現地調査) @田野畑村	8/7(日)～8/10(水) 最終日は移動日	<ul style="list-style-type: none"> 田野畑村にてフィールドワーク（現地調査） 村長懇談実施 視察場所は以下を予定 村内観光スポット（北山崎、鶺鴒の巣断崖、机浜番屋、サッパ船アドベンチャーズ、みちく潮風トレイル、田野畑村民俗資料館、三陸鉄道田野畑駅・島越駅、道の駅たのはた、思惟創館など） 観光従事者等へのヒアリング（ホテル羅賀荘、NPO 体験村たのはたネットワーク、（一社）思惟の風、役場観光担当など） 仮説に対して実際に現地調査を行い検証
⑤	村長懇談 (現地調査) @田野畑村	8/8(月) 9時-10時30分 ※現地調査期間中に実施	<ul style="list-style-type: none"> 田野畑村村長との直接の意見交換
⑥	オンラインヒアリング (@Zoom)	8/23(火)～8/26(金)、8/29(月)	<ul style="list-style-type: none"> 事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようしてください。
⑦	対面グループワーク @早稲田キャンパス	8/30(火) 10-17時	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告会前に学内の教室でグループワーク可能。実施時間は参加学生の都合を確認し決定
⑧	中間報告会 @早稲田キャンパス	9/7(水) 10時30分-12時30分	<ul style="list-style-type: none"> ヒアリング、懇談などをふまえた提案内容の報告 自治体担当者、大学職員が参加予定 報告会後はグループワーク用に会場開放予定
⑨	プレ報告会	9/14(水) 10時30分-12時30分	<ul style="list-style-type: none"> 最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 報告会後はグループワーク用に会場利用可能

⑩	対面グループワーク @早稲田キャンパス	9/20 (火) 10-17時	<ul style="list-style-type: none"> ・最終報告会に向けて、学内の教室でグループワーク可能。実施時間は参加学生の都合を確認し決定 ・プレ報告会での指摘をうけ、提案内容最終調整、プレゼン練習等
⑪	最終報告会準備・ 追加調査期間	中間報告会 ~9/22 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ・中間報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・状況に応じてリハーサル (対面 or オンライン) 実施・提案の再検証 (必要に応じて追加ヒアリング実施)
⑫	最終報告会 @早稲田キャンパス	9/22 (木) 13-15時	<ul style="list-style-type: none"> ・村長など自治体関係者や地域住民の方々 (@オンライン) に向けて提案を発表 (約 2 時間) ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会 (1 時間程度) を実施するため、解散時刻は 16 時頃となります。

※スケジュール (特に中間、最終報告会、現地調査以外) は変更の可能性がございます。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
- 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
- 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
- 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
- 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション

学生同士で時間を決め、対面での
打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 今までにない視点を発見することができたことがもっとも大きな収穫でした。（中略）机上の空論でない地方創生とは何かを学ぶことが出来ました。なかなか大学にいても学べないことであったので貴重な経験となりました。（政治経済学部 3 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 自分の長所や短所を発見することができたし、意見を出すことの躊躇いなくなりました。小さな意見や変わった意見でも言葉にすることで、新たな提案に繋がったこともあったため、発言に自信を持てるようになりました。（スポーツ科学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々それぞれ熱い思いをもって様々なことを考えていらっしやることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- ヒアリングを通して、「地域貢献」「地方創生」はその地域に愛着をもって創生したいと思って進んでいる方々を尊敬し、その方々が感じている魅力に寄り添っていく延長線上にあると強く意識するようになりました。（創造理工学部 1 年）